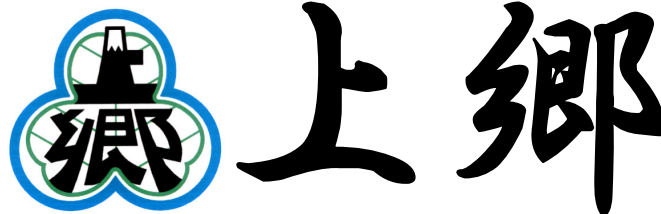


令和5年度 学校だより

5月号



横浜市立上郷小学校

〒247-0026 横浜市栄区犬山町6番1号

電話 045-894-0761

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamigo/>

## 子どもの力と信頼すること

学校長 かいつ よしのり 海津 善宜

新緑が輝く中、校庭では様々な植物が順番を競うように芽吹いています。本校の創立時に矢沢小学校から移設された「野草園」でも子どもたちの成長を見守るかのように、いく種ものかわいい花を咲かせています。新年度が始まり、一ヶ月が過ぎようとしています。最初は緊張気味だった1年生も、日に日に学校生活にも慣れ、休み時間は元気に校庭で遊んでいます。2年生以上はというと、挨拶など一つ一つの仕草に「学年が上がると、こんなに違うものなんだな。」と驚かされる場面もたくさん見られます。特に6年生は、最高学年としての自覚をもち、学校のリーダーとして1年生のお世話など様々な場面で活躍しています。

さて、ある本の一説を紹介します。「とにかく大人は、子どもの力を信頼できずに、つい何でも口や手を出してしまいがちである。子どもが自分で育つ力を引き出すためには、親は子どもに対する信頼という愛情を送らなければいけない。子どもの力を信頼することとは、子どもが問題に直面した時に、すぐに助け舟を出さず、子どもは必ず自分の力で問題を乗り越えられるということを信じながら、じっくり待つことである。親がそのように愛情を注ぎながら待っている間に、子どもは自らの可能性を模索し、子ども自身が自分のもつ力を発揮して成長していくのではないだろうか。」（出典：こんなかわりが子どもを変える より） 「そうは言っても、なかなか…」子育てにおいて、信頼して見守るといことは大変難しいことですが、私は信頼することで子どもとのつながりが強くなり、よりよい関係を築いていくことになると思っています。もちろん子どもたちだけで解決できない課題が出てきた場合には、発達の段階や問題の質などにより教師や保護者など冷静に広い視野をもつ大人の助けも必要となります。発達段階に応じた見守り方を表したアメリカンインディアンの教えと言われる「子育て四訓」というものがあります。

乳児はしっかりと肌を離すな 幼児は肌を離せ 手を離すな  
少年は手を離せ 目を離すな 青年は目を離せ 心を離すな

私の子育てを振り返ると四訓のようにできたか定かではありませんが、これを読んで「なるほど。」と思うのは私だけではないはずです。子どもは本来、自分でできる力、伸びていこうとする力をもっています。しかし、関わり方次第で子どもの力を伸ばすことも、そうでないこともあります。「手をかける」段階か「気につけ、見守る」段階か、その加減を見極め、子どもたちの健全な成長を促すためには、学校と家庭の情報共有が不可欠となります。何かご心配なことがありましたら、お気軽に学校までご連絡・ご相談ください。これからも地域・家庭・学校、そして子ども同士が互いを信頼することを基によりよい学校づくりをしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。